

adres unit

AD-2 MKII

アドレスユニット取扱説明書

- 保証書を必ずお受けとりください。
- このたびは、オーレックスアドレスユニットをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。お求めのアドレスユニットを正しく使っていただくために、お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、必ず保存してください。

40,000円

目 次

特 長	2
接続のしかた	3
各部のなまえとその働き	4
キャリブレーションのとりかた	6
録音のしかた	7
再生のしかた	8
アドレスレコードの聴きかた	8
その他のいろいろな使いかた	9
ご注意	10
修理サービス	10
保証について	11
仕 様	11
アドレスについて	12

特 長

- **adres** **DISC** アドレスレコードのモニター可能
- レベルマーカー付

アドレス効果

(当社カセットデッキでの例)

ダイナミックレンジ 100dB以上(1kHz)

総合S/N比 約90dB

ノイズレベル 従来の30分の1
(10kHz)

最大録音レベル 従来の2倍以上改善
(1kHz)

歪 率 従来の6分の1
(+10dB, 400Hz)
従来の2分の1
(0dB, 400Hz)



adresは東京芝浦電気株式会社で開発した自動ダイナミックレンジ拡大システム(Automatic Dynamic Range Expansion System)の略です。

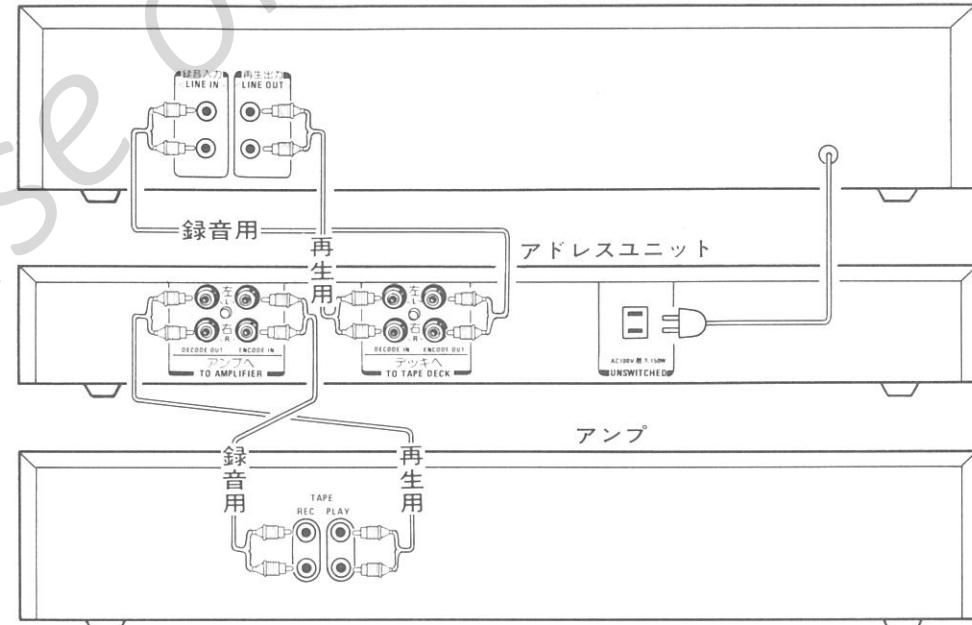
接続のしかた

■ 付属のピンコードを使って、図のように確実につないでください。

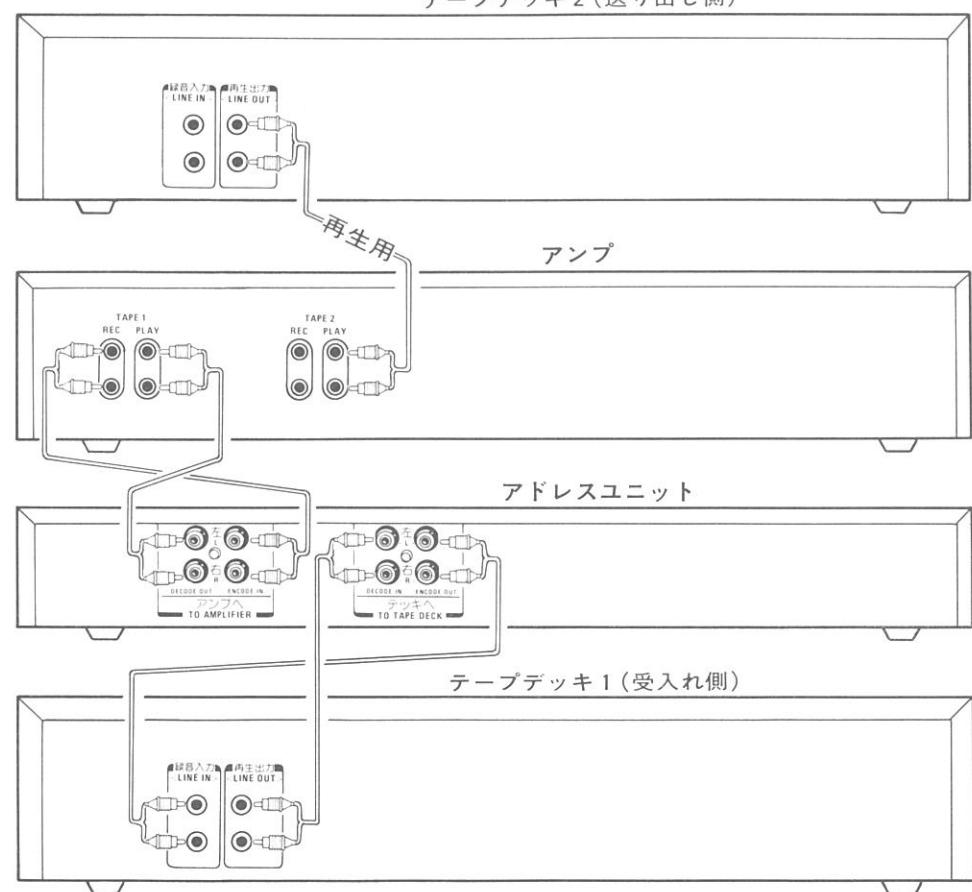
- ピンコードの赤いプラグは右(R)チャンネル用です。

- 接続するときは、アドレスユニット、アンプ、テープデッキの電源は切っておいてください。

テープデッキ



■ テープコピーするとき

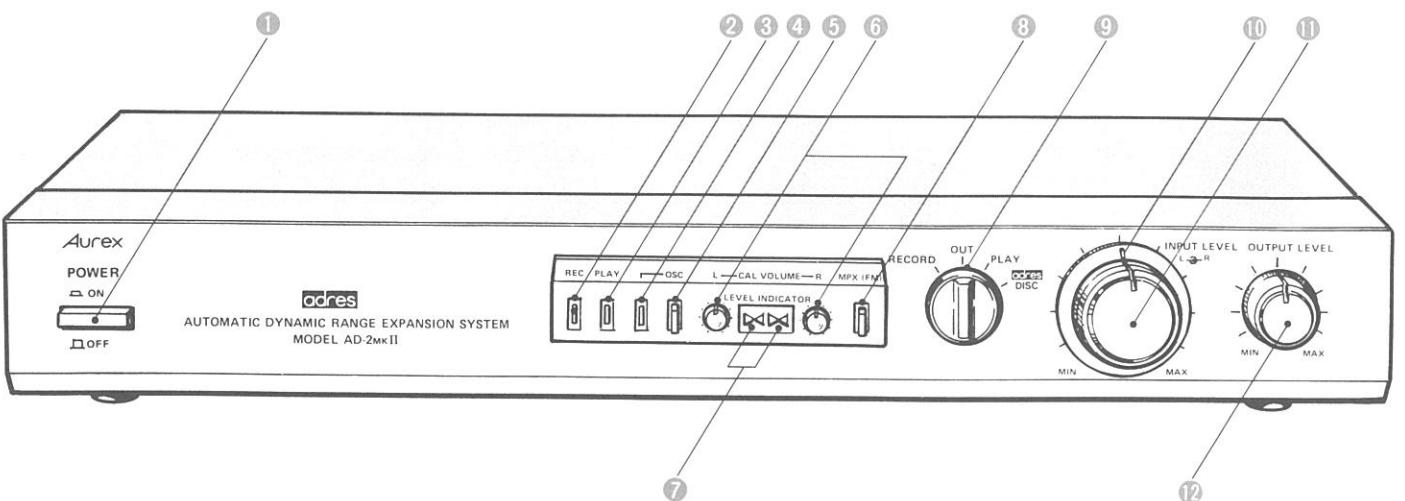


■ マイク録音の場合

- マイクロホンミキサー、またはマイクアンプを上図のアンプにおさかえて、それぞれのライン出力端子(録音用端子)とアドレス

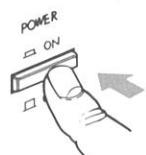
ユニットのアンプ用録音端子とを接続してください。

各部のなまえとその働き



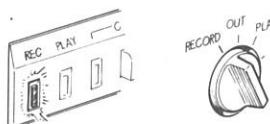
①[POWER]電源スイッチ

ボタンを押すと電源が入ります。
〔注〕アドレス録音再生しないときも電源スイッチは入れてください。



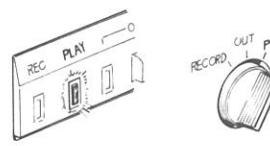
②[REC]アドレス録音インジケーター

アドレススイッチ⑨を<RECORD>にすると赤色に点灯します。



③[PLAY]アドレス再生インジケーター

アドレススイッチ⑨を<PLAY>にすると緑色に点灯します。



④キャリブレーショントーンインジケーター

〔OSC〕ボタン⑤を押すと、緑色に点灯します。

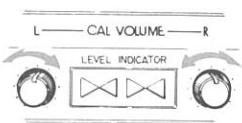


⑤[OSC]キャリブレーション用内蔵発振器

このボタンを押すと、アドレス基準レベルを合わせるための、ビー音（キャリブレーション信号 1 kHz, 150mV）が出ます。

⑥[CAL VOLUME]

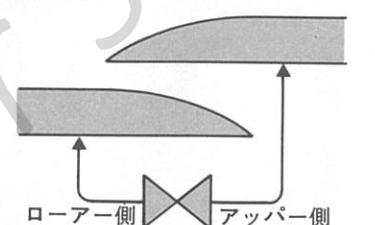
キャリブレーション用プリセットボリューム
アドレス基準信号再生時に、レベルを合わせるためのツマミです。（詳しくは 6 ページ）



⑦レベルインジケーター

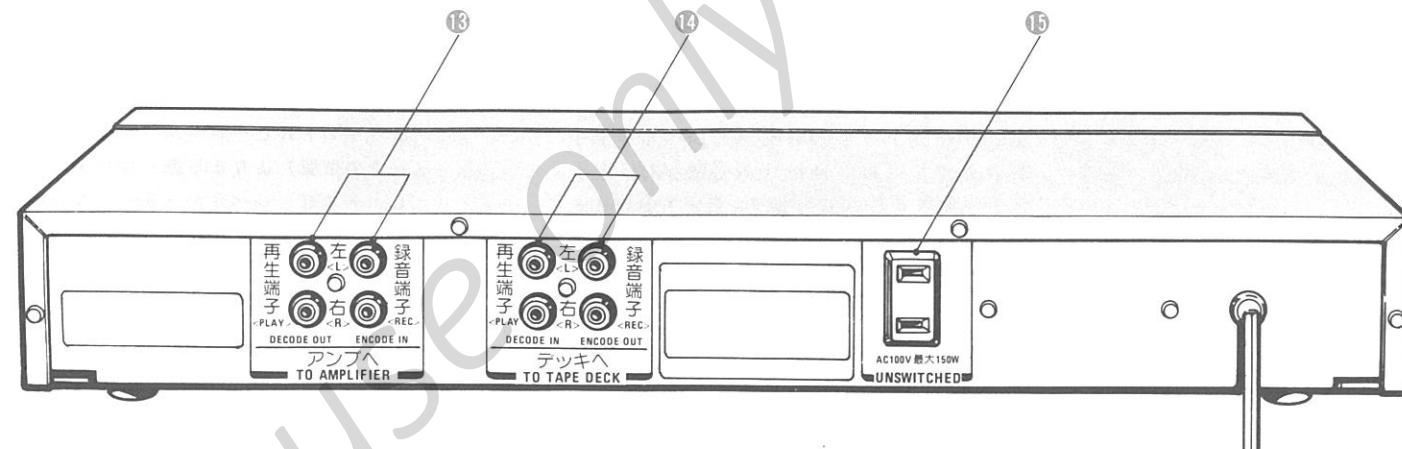
キャリブレーション時のレベル合せのほか、録音時、再生時のレベル監視ができます。点灯レベルはおよそ次のとおりです。

- ▶ -3dB 以下の信号で点灯
- ▶ -3dB の信号で点灯
- ▶ -3dB 以上の信号で点灯



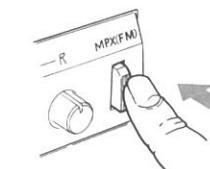
レベルインジケーターの点灯範囲

〔注〕●アドレステープ以外を再生するとき（アドレススイッチ⑨が<OUT>のとき）は、このインジケーターはアンプのREC OUT 出力（たとえばFMなど）で点滅します。



⑧[MPX(FM)]MPXフィルター ボタン

このボタンを押すとMPXフィルターが入ります。
FMステレオ放送や、テレビの音声多重放送を録音するときは、このボタンを押してください。（△ON, □OFF）



⑨[RECORD/OUT/PLAY/ adres DISC]

アドレススイッチ

アドレス録音再生するときや、アドレスレコードをモニターするときに使うスイッチです。

- <RECORD> アドレス録音するとき
- <OUT> アドレス録音再生をしないとき
- <PLAY> アドレス再生するとき
- <adres DISC> アドレスレコードを聞くとき



⑩レベルマーカー

〔INPUT LEVEL〕入力レベル調整ツマミ

入力（録音）レベルを調整するツマミです。奥<R>が右チャンネル用、手前<L>が左チャンネル用です。なお、調整後レベルマーカー⑩の指示をこのツマミに合せておくと、一般的に録音レベルの目安となり便利です。

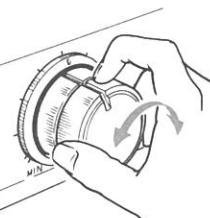
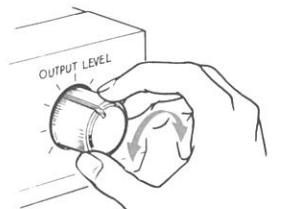


表1 録音レベルの目安

	ユニットのレベル インジケーター	デッキのピーク メーターでの目安
低すぎるレベル	ほとんど左だけ点灯	-3dB以下
適正レベル	だいたい両方点滅	-10~+3dB
高すぎるレベル	ひんぱんに右が点灯	-3dB以上

⑪[OUTPUT LEVEL]出力調整ツマミ

このセットの出力レベルを調整するツマミです。
フェードイン、フェードアウトができます。



⑫[アンプ用入出力端子]

再生端子〔PLAY〕はアンプのテープ再生端子（TAPE-PLAY）へ、録音端子〔REC〕はアンプの録音端子（TAPE-REC）へつなぎます。

⑬[デッキ用入出力端子]

再生端子〔PLAY〕はデッキの再生端子（LINE OUT/PLAY）へ、録音端子〔REC〕はデッキの録音端子（LINE IN/REC）へつなぎます。

⑭[予備コンセント]

AC 100Vをとれるコンセントです。このセットの電源スイッチに関係なく、150Wまでの機器に電源を供給できます。

キャリブレーションのとりかた

1はじめに

- アドレスには、基準レベルが決められています。アドレス録音再生をする場合、アドレス効果を最大に発揮させるため、また、アドレス内蔵デッキとの互換性を保つために、テープデッキの再生出力レベルをアドレス基準レベルに合わせる必要があります。もし、大きくレベルが違うと(±2dB以上)、再生時に十分な効果が得られないことがあります。
 - アドレス基準レベルとは、録音時に圧縮した録音信号を、再生時に元のダイナミックレンジまで戻すために必要な基準となるレベルのことです。
- アドレス基準レベル: 1kHz, -3dB(0dB = 160pWb/mm)

[注]1.お手持ちのデッキのメーターがVU、ピークのどちらであっても、一般的に、連続

2アドレス基準信号(CAL TONE)の録音のしかた



- ①アドレススイッチを<RECORD>にします。
- ②[OSC]ボタンを押し、CAL TONEを発振させます。
- ③テープデッキの入力レベル(CAL TONE)が-3dB(アドレス基準レベル)になるようにデッキの録音ボリュームを調整し固定します。
- 〔注〕1. デッキのNRスイッチはOUTにしておきます。
2. 録音ボリュームは、-3dBに調整後動かさないでください。

- ④CAL TONEを20秒ほど録音します。
(参考)CAL TONEの録音は、テープB面の終端にされることをお勧めします。
- 〔注〕1. 録音したCAL TONEは消さないでください。
2. CAL TONEの録音が終ったら、[OSC]ボタンを押して元に戻してください。
3. アドレススイッチが<PLAY>のときはCAL TONEは出ません。

3アドレス基準信号(CAL TONE)の再生

アドレステープを再生する前に、次の順序に従って、録音されたCAL TONEを再生し、



- ①アドレススイッチを<PLAY>にします。
- ②テープデッキでCAL TONEを再生します。
〔注〕デッキに出力ボリュームがある場合には、最大(MAX)にしておきます。

- ③再生したCAL TONEが-3dB(▶)を示すように、[CAL VOLUME]を調整し固定します。

注1. 同一銘柄のテープを使う場合は、アドレス基準レベルは一度合せておけばほぼOKですが、確認のため、再生のたびにキャリブレーションをとることをおすすめします。したがって、テープに録音したCAL TONEは消さないでおいてください。

2. CAL TONEの再生レベルがテープデッキのレベルメーターでは、録音感度差やテープ感度差等によって、-3dBにならないことがあります。アドレスユニットのレベルインジケーターでアドレス基準レベル(▶=-3dB)に調整されていればOKです。

3. デッキに出力ツマミがある場合は、アドレスユニットの[CAL VOLUME]を右へいっぱいに回しておき、デッキの出力ツマミを使ってレベルインジケーターが-3dBになるように調整することもできます。

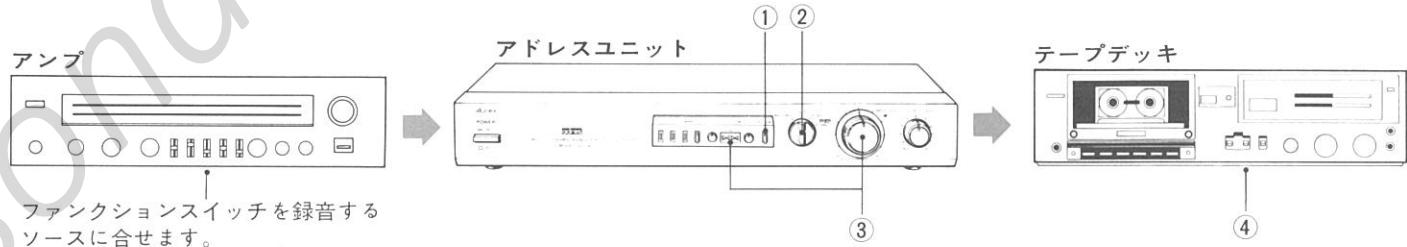
4. また、出力ツマミによって、レベルメーターの指示が変わるデッキの場合は、基準信号を再生したときアドレスユニットのレベルインジケーターが-3dBになる点に、出力ツマミをプリセットしてください。

5. なお、デッキの録音ツマミと出力ツマミ、アドレスユニットの[CAL VOLUME]は、レベル合せ後は動かさないでください。

録音のしかた

■アドレス録音

次の順序に従って録音してください。



①FMステレオ放送やテレビの音声多重放送のときはMPXスイッチを押します。

②アドレススイッチを<RECORD>にします。

③レベルインジケーターが時々-3dBを越える程度に[INPUT LEVEL]ツマミで録音レベルを調整します。(参考)4ページ)

④録音操作をします。

〔注〕1. テープデッキの録音ボリュームと出力ボリュームは、キャリブレーションをどつたレベルのまま固定しておいてください。

2. テープに録音したCAL TONEは消さないでください。

3. デッキのNRスイッチはOUTにしておきます。

注 デッキのレベルメーターは、アドレス録音時、ダイナミックレンジが圧縮された信号で振れます。したがって、微弱信号ほど大きく指示することになります。

(参考)オープンデッキの場合は、大入力に対する余裕が大きいので、CAL TONEをたとえば0dBに録音してもかまいません。しかし、後で、カセットテープにそのまま(圧縮された信号のまま)ダビングする場合のピークマージンを考慮して、ソースの録音レベルはCAL TONEのレベルを余り越えないことをおすすめします。

■マイク録音の場合は、マイクミキサーまたはマイクアンプを使い、マイクミキサー、マイクアンプの出力端子をアドレスユニットのアンプ用録音端子につないで同様の操作をしてください。

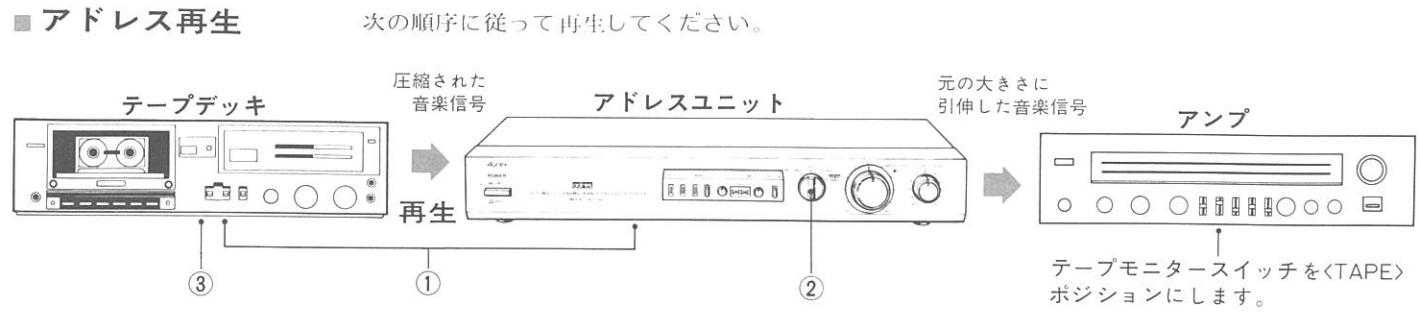
■アドレスシステムを通して録音しないときは、アドレススイッチを<OUT>にして同様に操作してください。

〔注〕1. アドレスアウトの場合は、入出力レベルの調整はデッキの録音ボリュームや出力ボリュームで行ってもかまいませんが、あとでアドレス録音再生するときのことを考慮すると、キャリブレーションをどつたまま固定しておくことをお勧めします。

2. ドルビーNR録音する場合は、デッキのNRスイッチをドルビーNRポジションに、アドレスユニットのアドレススイッチは<OUT>ポジションにしてください。

再生のしかた

■ アドレス再生



次の順序に従って再生してください。

- ① キャリブレーションをとってください。(6ページ参照)
 - ② アドレススイッチを<PLAY>にします。
 - ③ デッキの再生操作をします。
- 〔注〕1. デッキの出力ボリュームはキャリブレーションをとった後、動かさないでください。

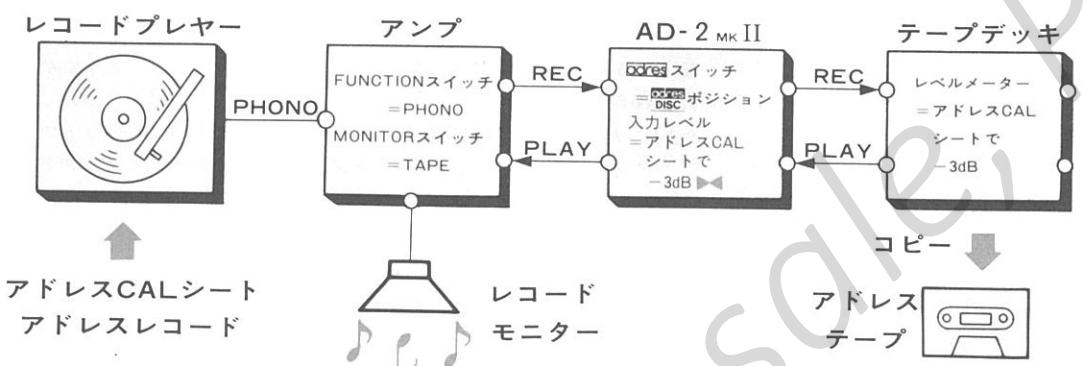
■ アドレスシステムを通して再生しないときは、アドレススイッチを<OUT>にしてください。

アドレスレコードの聴きかた

アドレスの新しいソフト、アドレスレコードはアドレステープと同様に、圧縮した音楽信号が刻まれています。

■ 接続

3ページの接続と同じです



■ キャリブレーション

アドレステープと同様にまず、アドレスレコードでも基準レベルを合せます。

- ① アドレスユニットのアドレススイッチをディスクポジション<DISC>にします。
 - ② アンプのファンクションスイッチは<PHONO>、テープモニタースイッチは<TAPE>にします。
 - ③ 付属のアドレス CAL シートをプレイヤーにかけて、基準信号<CAL TONE>を再生します。
 - ④ 再生した CAL TONE が-3dB(▶)を示すように、アドレスユニットの[CAL VOLUME]で調整し、固定します。
- 〔注〕1. -3dB にならない(不足する)ときはより出力の高いカートリッジに交換してください。
※アドレスレコード再生で必要な最低入力レベル(即ちアンプのREC OUT出力)は、アドレス CAL シートで100mV以上です。
2. 調整した位置を忘れないように、レベルマーカーを回して指線を合せておくと便利です。

■ アドレスレコードのモニター

前項2のまま、アドレスレコードをプレイヤーにかけ、再生します。

〔注〕1. アドレスユニットの入力レベル調整ツマミ [INPUT LEVEL] は、キャリブレーションをとった位置のまま動かさないでください。

■ アドレスレコードのコピー

前項2のまま、次の順序に従ってコピーしてください。

- ① 付属のアドレスCALシートのCAL TONE 再生レベルが-3dBとなるように、デッキの録音ボリュームで調整し固定します。
- ② テープのB面終端(またはA面の頭)にこの CAL TONE を20秒ほど録音します。

2. レコードモニターの音量は、アンプのボリュームかアドレスユニットの出力レベル調整ツマミ [OUTPUT LEVEL] で調整してください。

- ③ アドレスレコードをかけてデッキでテープのA面から録音(コピー)します。

〔注〕デッキの録音ボリュームは動かさないでください。

■ その他のいろいろな使いかた

● テープコピーするときは、右図のように接続してください。(3ページ参照)

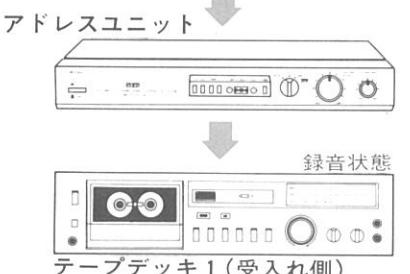
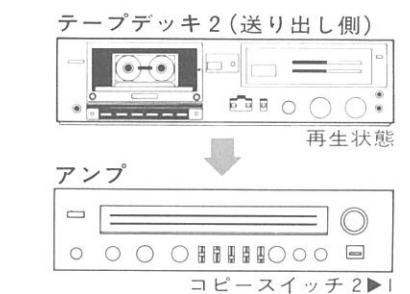
〔注〕送り出し(再生)側のデッキのピー音(アドレス基準信号)を受入れ(録音)側のデッキでも-3dBになるよう、デッキ相互間のレベル合せを正確に行ってください。

■ アドレスインからアドレスインのテープをつくる場合

- アドレススイッチを<OUT>にして、そのままダビングしてください

■ アドレスインからアドレスアウトのテープをつくる場合

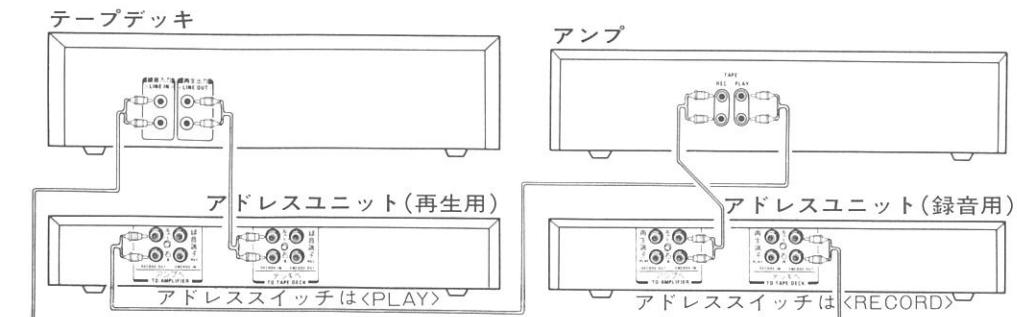
- アドレススイッチを<PLAY>にし、そのままダビングしてください



〔注〕アンプにコピースイッチがない場合は、Tape Deck 2 の再生 (LINE OUT) 端子とアンプのAUX端子を接続し、アンプのFUNCTIONスイッチをAUXにして、Tape Deck 2 を送り出し側として使ってください。

■ 3ヘッドのデッキと組合せて同時モニターするとき、または、アドレススイッチの切換えを省くとき

- 録音用、再生用の2台のアドレスユニットが必要になります。



なお、3ヘッド用アドレスユニットとしては、AD-4 MK IIをお勧めします。